

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200869		
法人名	有限会社ミセスヘルパー		
事業所名	グループホーム 喜楽苑		
所在地	山口県宇部市大字西岐波5224-3		
自己評価作成日	平成24年6月26日	評価結果市町受理日	平成24年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成 24年 7月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人の理念を念頭に、グループホーム独自の理念に基づき、利用者一人ひとりのペースに合わせて安心できる生活づくりをしている。通院介助を行い、受診記録を作成・活用して利用者個人の健康状態の把握と管理に努めている。訪問歯科による検診や医師の指導助言のもと、口腔リハビリ体操を実施したりと口腔ケアが充実している。地域密着型サービスの特徴を活かし、馴染みながらサービスの利用ができる。介護度も上がっている中で、個別での外出ができるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修への参加の機会の提供や、計画的に行われている法人の研修への参加、事業所の月1回の全体会議の中での研修など、全職員が研修を受ける機会を確保されて、働きながら技術や知識が身につくように、職員を育てる取り組みをしておられます。法人の看護師から指導を受けて、ターミナルケアについての勉強会を実施され、医師や訪問看護師、職員、家族が協力してチームケアに取り組み、1名の利用者を看取り終えておられます。利用者一人ひとりが活躍できる場面を多く作られ、韓流ドラマのビデオの視聴や好きな歌手のCDを聴かれたり、ゲームや体操、野菜づくりや収穫など、その人に合わせた支援で、利用者が張り合いのある日々が過ごせるよう取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を念頭におき、地域密着型サービスに基づいたグループホーム独自の理念を下に日々のケアに取り組んでいる。	「認知症になっても住み慣れた地域の中で穏やかに安心して暮らせるように支援していきます」という事業所独自の理念をつくり、全職員で共有して理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花火大会や消防避難訓練等、苑の行事に地域の方に声をかけて参加していただいている。また、節分際やドンド焼きに参加して地域の方々との交流に努めている。	地域の神社である節分祭やドンド焼きに参加したり、法人の行事やグループホームの花火大会に地域の人の参加があり、交流している。ボランティア(銭太鼓、大正琴、フラダンス、朗読、手品、民謡、三味線)の来訪でのふれあい、買い物時や散歩時に言葉を交わしたり、野菜の差入れがある。事業所で作ったケーキを地域の人にプレゼントするなど、地域の人との関わりを深めている。高校生の体験実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生・高校生の職場体験実習の受け入れを実施している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、自己評価及び外部評価の結果は職員全員で評価を受け止め、具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解して、項目を分担し全職員で評価に取り組んでいる。前回の評価結果を受けて理念の見直しをし、地域密着型としての理念を作っている。自己評価から地域との関わりや理解を深める取り組みをしていくことにしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、地域の方々をはじめ、利用者家族の輪も広げ、ホームの取り組み状況や外部評価の報告・意見交換をしてサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況、活動などの報告、利用者の事例紹介と取り組みについてなど、意見交換をしている。会議の中で食事会を開催し、参加者から好評を得ている。家族会をつくりたいという意見があり、9月に発会することが決まるなど、出た意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課・高齢福祉課・地域包括支援センターと連携し相談や情報交換している。	運営推進会議時の他、市の担当課や地域包括支援センターには、電話や出向いて困難事例の相談や情報交換を行うなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	喜楽苑の会社全体で研修会を実施し、マニュアルも作成している。職員も理解し、利用者の行動においても職員全員で共有し見守りしながら、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は法人の研修会に参加し、身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、職員の声のトーンや表情を含めて、不適切だと気づいたら注意しあっている。日中玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	喜楽苑の会社全体で高齢者虐待防止関連法について学習する機会を持ち、そのことについて理解を深め防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を活用されている利用者もおられたので理解はしている。今後も学習会を行っていき、必要とする利用者に対しては関係者と話し合い、活用できるよう支援していく。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・利用者の家族には十分な説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の要望や意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。相談・苦情については受け付け窓口を明示し、処理手続きを定め運営に反映されるように努めている。	運営推進会議時や、面会時、電話等で家族から意見や要望を聞き、運営に反映させている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め家族に周知し、家族から苦情があった場合は、職員で話し合っ共有し改善に努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人の会議や事業所の月1回の会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。業務分担をわかりやすくするなどの意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準・労働時間など少しずつ改善されており、職員一人一人がやりがいを持ち、向上心をもって働ける職場環境・条件の整備も整ってきている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	非常勤も含め、全職員が研修を受ける機会があり、各ユニットリーダーを配置し働きながらトレーニングを行い、資格取得の機会を得ている。	外部研修は段階や研修内容に応じて参加の機会を提供している。受講後は、復命報告をし資料を閲覧できるようにして共有している。法人研修への参加や、全体会議の中で内部研修を実施する他、働きながら、技術や知識が身につくように職員を育てる取り組みをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、ブロック研修会に参加し、勉強会や交流・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談や家族等の情報にて不安なこと・要望などに耳を傾けながら、安心できるための関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談にて困っていること・不安なこと・要望をしっかりと聞いて、それに添えるよう関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の面接にて、本人と家族がその時に必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応ができるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者という関係の壁を作らず、利用者からは生活の知恵を教わり、お互いに支えあえる関係性を築いていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、日々の様子・受診の結果を定期的に伝えており、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないように希望があればドライブをかねて訪問したり、連絡したりと支援に努めている。	家族の協力を得て、利用者の住んでいた地域の敬老会への参加や法事への参加、墓参りなどの支援をしている。馴染みの美容院による送迎で利用したり、自宅周辺へのドライブや知人や友人の訪問、新たに移動理美容院の人と馴染みになるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握し孤立することのないよう利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者にも、本人や家族の相談に応じ、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面談にて、思いや暮らし方の希望を聞き、意向の把握に努めている。困難な場合も、それに添えるような近い状況を作れるよう、本人本位に検討している。	センター方式のシートの活用や日常の関わりの中で、聞き取った思いや意向を生活記録に記録して把握に努めている。困難な場合は、利用者の行動や表情から推し測り本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報に加えて、家族や利用者との日常生活の会話などから把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方・心身状態等、個人別に記入しており、日々現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・その他必要な関係者や職員全員で話し合い、意見やアイデアを反映しながら現状に応じた介護計画を作成している。	月1回の職員会議の中でケアカンファレンスを行い、把握している利用者の意向や、聞いている家族の意見、訪問看護師の意見、担当職員からの日々の利用者の状況についての意見などを参考にして話し合い介護計画を作成している。半年に1度見直しをしている。	・モニタリングの実施
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスを使用することにより、利用者一人一人のバイタル・食事量・水分量の記載、ケアプラン・モニタリングの実施状況の把握を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望にて外出したり、結婚式に同行したりと柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいセンター等で実施されている催しで参加できることなど検討しているが、まだ利用はしていない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に話し合い、希望の医療機関と連携し、受診支援や情報の伝達を行っている。かかりつけ医の希望も多く、受診記録をファイルし家族と共有している。	利用者それぞれが希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医への受診の同行支援や、協力医療機関からの2週間に1度の往診、緊急時、必要時の受診の支援、訪問看護師による健康管理など適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	二週間に一回、訪問看護来苑。利用者全員の個々の状態を記録し伝えている。都度、助言指導を受けており、状態に応じて適切な受診ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、職員が同行し情報交換を行っている。又、退院に向けての相談・退院時にも情報交換を行い、病院関係者との連携をはかっている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針・同意書を作成し本人・家族と話し合っで方針を共有している。病院・訪看・家族・職員でチームケアに取り組みでいる。今年度ターミナルケア経験している。	契約時に事業所の指針を家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、医師や訪問看護師、家族、職員、関係者などで話し合い方針を共有して支援に取り組んでいる。ターミナルケアについて、法人の看護師の指導で勉強会を行い、1名の看取りを経験している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故やヒヤリハットに関する報告・記録がある時はミーティングで検討し共有している。応急手当は初期対応の研修は消防の方に来ていただき実施したり、会社として勉強会を実施しているが、実践力を身につける必要はある。	ヒヤリはっと、事故報告書に記録し、その場には職員で対応策を話し合い、申し送り時に共有し、職員会議で検討して一人ひとりの事故防止に努めている。応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施していない。	・定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の避難訓練を消防署立会いの下年2回実施している。消化器の使い方や避難経路を明確にしている。また、避難訓練は自治会の方にも声を掛けて参加していただき、協力を得られるよう働きかけている。	年1回消防署の協力を得て火災時避難訓練を実施し、地域の人5名の参加を得ている。災害時での地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	喜楽苑の会社全体でプライバシーに関する研修を実施し、日常的にカンファレンスで声掛けやケアの徹底に取り組んでいる。	職員は、法人での研修で学び、利用者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底してケアに取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散歩などの外出の希望があれば必ず実行し、日常生活の会話の中から本人の希望を聞いたり自己決定できる環境を整えたり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人的な外出に合わせての起床時間や入浴時間を変更したりと一人ひとりのペースに沿った支援をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、整容に関してはさりげなくカバーしておしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは職員が行っているが、お盆拭きや台拭きは利用者と一緒にしている。利用者と一緒に食事を摂り、テーブル毎に話も弾んでいる。	食事は法人の配食を利用している。ご飯と汁物や朝食は事業所で作っている。利用者はテーブル拭きやお盆拭きなどできることを職員と一緒にしている。職員1名が利用者と同じものを食べている。利用者と職員は同じ食卓を囲んで会話しながら食事している。日曜日の食事づくりや、おやつづくり、お弁当持参で戸外で食べたり、外食など食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は記録し、一人ひとりの状態に応じた食事形態(ミキサー食や刻み食等)で支援している。栄養バランス・カロリーについては年1回管理指導あり。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に応じた毎食後口腔ケアを実施し、義歯の洗浄を援助している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンや行動により声掛けにてトイレでの排泄を支援している。	ケア記録を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は毎日チェックし記録している。食事・運動・腹部マッサージ等実施し、必要に応じて医師の指示にて服薬も介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一応、曜日や時間帯も決めているが、個々の体調や希望に添って援助している。	入浴は毎日、10時から11時30分までと13時30分から15時30分まで可能で、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない利用者には無理強いしないで、タイミングをずらしたり、声かけに工夫して、入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠の方・体調によって休息が必要な時には、安心して休めるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルし全員が理解しており、夜勤者が配薬している。服薬は手渡しして確認し、必要な情報は医師にフィールドバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴をふまえて畑作りや趣味の本を購入するために本屋に行ったり、ドライブに行ったりと気分転換をはかっている。	新聞や本を読む、テレビ視聴(歌番組)ビデオ視聴(韓流ドラマ)、CD(好きな歌手)を聴く、編み物、トランプ、カルタ、オセロ、すごろく、風船バレー、ボール転がし、ラジオ体操、折り紙工作、歌を歌う、洗濯物たたみ、草とり、野菜づくり、野菜の収穫など、楽しみごとや一人ひとりが活躍できる場面をつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物・季節に応じて外出やドライブ等をできるだけ多くできるように支援している。また、家族の協力を得て年1回、日帰りバス旅行を実施している。	周辺の散歩、日用品の買い物、月2・3回のドライブ、季節ごとの花見、家族の協力を得ての日帰り旅行など、戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には個々の小口現金を持って行き、使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればつないでいる。又、手紙はいつでも投函し、届け物があつた時には職員より電話の声掛けをしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は静かで広く明るい。適宜、換気・温度・湿度も調整している。ゆったりしたソファや和室があり、季節の花が飾られている。周辺の緑や畑が眺められ、玄関先の花壇やプランターの花など季節が感じられるようになっている。	共用空間は明るく広々として、音や温度、湿度、換気などに配慮している。テーブルや椅子の他、大きなソファが2ヶ所に置いてあり、窓の外の山々を眺めたり、テレビをみたり、利用者同士で会話したり、畳のコーナーでは横になることができる。室内には季節の花が生けてあり、壁面には、行事の写真(利用者の笑顔のある)が飾ってある他、台所からは、ご飯や汁を炊く匂いがしているなど、季節感や生活感があるように工夫し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で独りになられたり、ソファも2箇所置いてあり、気の合った利用者同士で談話したりと思ひ思ひの日々を過ごされている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は衣装ケース・椅子など馴染みの家具や好みの絵画や写真が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように支援している。	ベッド、小タンス、籐椅子、テレビなど馴染みの物を持ち込み、家族の写真や自分の作品を飾って、利用者が安心して過ごせるように支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りで、居室の入り口には表札と写真があり居室がわかるようになっている。トイレもカーテンと引き戸とあり、安全でわかりやすい。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム喜楽苑

作成日：平成 24年 11月 2日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	モニタリングの実施	ケアプランを見て、計画内容に対して実施できているかどうかわかるようにする	ケアプランに評価の欄を作り、プランに対し実施できたかどうかの記録を残し次のケアプラン作成に繋げる。	1年
2	35	応急手当・初期対応の定期的な訓練の実施	年間の職員全員に対しての勉強会に組み入れる	年間の勉強会に組み入れて、職員全員に法人の看護師による応急手当・初期対応の指導をしてもらう。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。